



門外見4
1168
卷1-3



序

夫能登の國より行水海（出程）遠小六十里
あり極程沈むる六里（深）不足（山）の地（地）
く山（山）の（と）壁（壁）岩（岩）険（険）路（路）
限形（限形）故（故）佳（佳）景（景）此（此）秀（秀）於（於）一（一）步（步）小（小）有（有）加（加）之（之）

皇社乃靈閣郡小満ち廓跡舊典は那小
盈（盈）て歎（歎）交（交）外（外）邊（邊）鄙（鄙）此（此）遠（遠）境（境）於（於）此（此）知（知）於（於）人（人）
と此（此）と（と）（と）（と）吊（吊）公（公）勢（勢）（と）（と）（と）（と）此（此）水（水）海（海）と
巡（巡）家（家）（と）（と）（と）（と）形（形）に（に）物（物）色（色）色（色）人（人）乃（乃）物（物）

或曰拙見と云々 仁世と云々 此可
天賦と云々 此等と云々 書記之懐
と云々 此等と云々

安永六丁酉 孟春日

加陽金府住

文龍年癸卯

續日本記曰元正天皇養老二年割越
前國羽喰鳳至能登珠洲四郡始置能
登國又類聚倭名職臣之部曰能登國
靈龜二年割越中國置之國府有能登
郡其今之麻不何昔能門書門者鹽會之
名也又佐渡國強城云能門國關門云
日本之爲鬼門依之能門祝唱名也今
能登書一宮記曰往古此國有化鳥不
穩山海氣多神靈平之給海内能登

南

宝蓮山

木

八十

石勒山

氷見

四郡高二拾二万八百九拾一石余
 南北五拾里核八里輪流ヨリ宮縣ニテ海上三拾二里
 運賃水百石六石六斗八升
 福浦ヨリ宮縣ニテ海上二十里
 運賃水四石一斗四升



能登 鴻地長廿
 五里幅一里半
 村二十ヶ村
 壹 所ヨリ越中魚津ニ海上
 二十六里運賃百石四石
 八斗一升九合
 之 所ヨリ宮縣ニテ海上拾二里
 運賃水百石七斗四升九合
 圖 所ヨリ三浦ニテ海上拾五里運賃
 百石一斗四升
 宮縣ヨリ三浦ニテ海上四十四里
 運賃水百石八斗九升九合

北

運賃

故能登書也倭漢三女圖會能登北邊國
故形異而奇水珍石多又此山和尚廣錄
我聞能州山水之勝地而奇秀列中眉目
也誠山姿海狀他異凡邦國其士幅員大
而有高山則必有大川也能登幅員狹小
而無高山故所有之川皆小川也口郡幅
或五六里奧郡幅二三里北突出於加列
教十里偏海國也故於運漕有魚鹽之利

也嶺南之產物漂流來去

能州駄賃錢御定之事

一口二郡ハ切馬一里三拾八文宛人足賃ハ切馬半分ハ
輕尾ハ切馬六歩也

一奥二郡ハ切馬一里四拾七文余ノ割合ハ人足賃輕尾
の半分也也輕尾ハ切馬六歩也

但越中加賀トモ遠有能州ハ運漕トモ也小
此ハ大町ノ人足物ハ已付トモ奥二郡返
那一筋の荷物ハ數十人出持

能州名跡心

高松

加賀四郡ハ津幡三里半有首ニ人足六十二文
輕尾六歩又凡令深六里半法賃合ハ二首ハ

は高松家数三首トモ半権原蛤の名物也亦能ハ高松家数有
又ハ高松十町トモ小加賀能ハ高松名物也俗ハ貝ノ蛤トモ
海際ハ二丁トモ有又ハ北東乃乃乃越中言渡越トモ加賀
能列の浦方ヲ越中今石動其從弟之梁村トモ南ハ東三ハ
南ハ加越能三州ハ控山者也トモ三三流トモ一里塚の如キ小山
ノ坂ハ上トモ右の方ハ加賀ノ倉山ノ宮渡村越中上河原村
能列ノ流山トモ三尺の繩ハ投年ハ三三のノ多ハ谷トモハ三三

但越中言渡村ハ能列控三三の同郡村トモナリ又言渡トモ也名
小ノ中トモ能也近キ高小名小栗柄トモナリ村の入口
後更信政の塚トモナリ鬼谷トモハ日ナリ水邊トモナリ

鬼門の多り多しおのこは能く此の事とつは昔の事
乃河を化多大地住く捨湯降り人成り人成り
一山とたつとつり別後寛信経丹波此の成経平賀
席願六の配りては能く之の當年をやりとつり別
原成成神宗成祈ののこ能く現と配り有一所成
能く地方とて地寺といふ大社有又同去時此御神神
平家侍越中此常高盛次重盛此後とて越中を
同祀社社移一奉りしといふり又後寛信の成り
少有事に此常高盛次重盛此後とて越中を別
能く此四目代とて常りては三とて配りしといふ又同
本宮義仲平家并陣の時越中小交此川小陣有る
國乃の事常高運領とては下有るといふ
岩尾吉能の能く此乃不動とて今とて西直

何れとて人の死に能く此極少り去上抄第不替合導ノ
御書所と能く此の法橋婦とて中葛高妻と有る神代
此由はるれいひや右三人の配り中昔の事多しといふ
浮りといひ此常高盛次重盛此後とて越中を別
幸ふれといふ事知しといふ事作れ此末熟りてきて
知り此地方の作事多しといふ事此の根元代といふ事
とて此の事多しといふ事遺恨の事なり
又高松公金源といふ事遠小大海川後川とて能く此列之和漢三
公會山川及金以六里とつりげ川尾の及昔公金源の事
る事時定といふ事有るといふ事水新小退情の事といふ川尾川
常高常高といふ事此常高盛次重盛此後とて越中を別
測入常高といふ事砂尾今踏石不定歩の中に是れ
砂小入て或は死もる事能く此の事といふ事

出水六川上の二家村をとり其向ふ涉概有今後分
南ノ里人高松也此從来道此概ノ不業内ノ者ら分
海ノ見えて傍居たり川ノ源ハ室達牛首村山ノ二筋
又此生村山ノ一筋流て上ノ山村と合流也又蓮福寺川尻
水ノ一向家美和年中中興國基善寺上人源空此水
ニたり也川尻岩時也此水ノ源ハ見たり
ニヤノハ快晴此水ノ源ハ浦也細目見海ノ
面白カラク丸石を踏ミ其ノ水ノ流ルル多秋ノ
日ハ多シト西ノ方ノ水ノ流ルル多
云遊遊名ヲ生馬ノ元加リ判 久保
又室達山ノ水乃東ノ方加勢此水ノ源ハ山ノ一筋列
ノ中ノ其上室達村此水ノ源ハ金堀ノ中ノ室達村ノ松全重
家此水ノ源ハ此水ノ源ハ一里計有

又鎌倉所村ハ山ノ一里計有是ハ此水ノ源ハ太ノ塚也其
云遊遊名ヲ生馬ノ元加リ判
今濱川今濱川ノ水ノ源ハ此水ノ源ハ出水ノ源ハ

今濱

今松ノ里ニ有テ其ノ水ノ源ハ此水ノ源ハ
ニヤノハ快晴此水ノ源ハ浦也細目見海ノ
面白カラク丸石を踏ミ其ノ水ノ流ルル多秋ノ
日ハ多シト西ノ方ノ水ノ流ルル多
云遊遊名ヲ生馬ノ元加リ判 久保
又室達山ノ水乃東ノ方加勢此水ノ源ハ山ノ一筋列
ノ中ノ其上室達村此水ノ源ハ金堀ノ中ノ室達村ノ松全重
家此水ノ源ハ此水ノ源ハ一里計有

皇女ノ太カ
恒頼朝云々前前和家御徳臣
末行ノ太カ
辰魚是時奉納

之北陸道才一北大楚神宮司楊井氏ハ神祇の中
坐喜武三代実祿一宮記杯亦見(をり)又宗神天皇北
御宇ハ御勅請六國和漢之儀給ハ祭神天(天照)
神階貞觀元年正月從一侍有乞ハ温行リ社信四ケ
寺中ハ長福院代(代)と云ハ寺カ西流地也知(知)黃明
利常ハ御宇也御好也(好)と云ハ外神主也人神子
一人者ハ御宇也三方石社信三六坊あり
中北之宮也又什宝也者中ハ七満月ノ珠あり
乞ハ種々奇瑞あり靈珠之也外世ハ倫旨院宣(宣)
御道有宗神天皇ノ代ハ勅使也(使)庄園不(不)附有(有)
りり今也ハ社信三百有石小(小)沖懸洞進乃(乃)細舟一(一)般演
松下(下)高附(附)あり

奉らぬと誓ひし海夜多想(想)神祇奇(奇)り曰

意(意)を(を)示(示)す(す)も(も)見(見)え(え)終(終)く(く)乞(乞)給(給)

一(一)川(川)の(の)宮(宮)乃(乃)奥(奥)北(北)社(社)り(り)

如(如)く(く)古(古)者(者)小(小)志(志)り(り)ハ大(大)原(原)社(社)ハ(ハ)社(社)信(信)三(三)六(六)坊(坊)あり(あり)御(御)神(神)祇(祇)
山(山)伏(伏)の(の)祭(祭)ハ(ハ)流(流)レ(レ)昂(昂)折(折)テ(テ)曰(曰)天(天)照(照)太(太)神(神)ノ(ノ)信(信)也(也)先(先)
我(我)々(々)人(人)を(を)有(有)ル(ル)ト(ト)モ(モ)社(社)信(信)也(也)カ(カ)古(古)久(久)ク(ク)ト(ト)
毎(毎)年(年)二(二)月(月)日(日)ノ(ノ)節(節)信(信)人(人)及(及)負(負)一(一)人(人)弁(弁)持(持)見(見)三(三)人(人)
級(級)合(合)立(立)ル(ル)中(中)門(門)殿(殿)之(之)七(七)日(日)の(の)別(別)決(決)有(有)テ(テ)神(神)前(前)ハ
護(護)摩(摩)院(院)燒(燒)奥(奥)社(社)ハ(ハ)不(不)レ(レ)モ(モ)其(其)ハ(ハ)探(探)燈(燈)乃(乃)護(護)摩(摩)云(云)
又(又)云(云)ヒ(ヒ)ト(ト)モ(モ)ヒ(ヒ)ト(ト)モ(モ)乞(乞)ハ(ハ)小(小)陸(陸)乃(乃)石(石)動(動)山(山)ハ(ハ)小(小)陸(陸)乃(乃)
六(六)ケ(ケ)山(山)毎(毎)年(年)三(三)度(度)宛(宛)聖(聖)茶(茶)ト(ト)モ(モ)勸(勸)進(進)也(也)乞(乞)ハ(ハ)大(大)宮(宮)
一(一)夜(夜)火(火)ノ(ノ)宮(宮)一(一)夜(夜)一(一)宮(宮)一(一)夜(夜)形(形)リ(リ)石(石)動(動)山(山)ト(ト)モ(モ)有(有)縁(縁)
毎(毎)年(年)二(二)月(月)初(初)日(日)乃(乃)日(日)り(り)西(西)口(口)宮(宮)ハ(ハ)八(八)里(里)の(の)程(程)幸(幸)ハ(ハ)云(云)

如宮の二名有りく水湯所有りけり古例
多し福田村七帝名と云ふ此類の依り傳ふを
授依といふ福村乃曰授子後といふ少く神子依を授ひ
一因縁なく神樂乃に授ひしを授ふ姉宮に言根
村才宮に下宿村乃氏神也又昔八道所八耳田の保り
乃の神をそく富女村の宮に二名有り也依て富女
の右者中け富女村の神ハ石動山天漢石三つを一つ
山同神の二一は神神石也謀ひは族系代の形多
乃信宜神と云ふ駿馬よりく津東の伝言一長途の
乃路の莊觀又形記云礼又毎年去月中此の日は
祭とく麻治於中山婦稱浦村乃形記を授く一宮
く中捨一里有乃と云ふ勅進す言如宮をく乃の
新端の祭有又今豊川村の宮を二一宮一巳午乃日一

宮より此史の板あり世の川に神前小放つ粉自分
社の階段乃はく之帳の首を羽をく記して跪き自ら
そくして海(注)以粉粉はの小能生授現乃授り其
之時能て授現の祭礼と云ふ此粉茶ハ代此帝ハ勅使
をて四方にわくまら此市祭後

古事記

能て此海の物を授海道のいさなり火乃
記りふいさを月をらわて

十月末つりいけ玉垣より去りく
此以安きいさくをさや小六月
文筆

又一人宮柳田村ハ乃小青地七島にいさ人の城跡をけ
此の宮に傳信と致す討死せし一塚ハ羽倉村城

猫橋の邊に有又一宮之御村の同十三塚と有申す
堀堀と耕と比今も其の堀の邊に有又石塚
といふ二宮の石の積揚身ふる石不殘杭字感て有
是昔一宮の塚歌三方る社の時社人多社信六方
坊有とと今ね塚村堀の邊に有といふ所小松東に
ありと有け時のおや

又一宮碧流寺の作の太子北靈尊のり跡村北
寺を湯といふとを堀をせし

又跡村の二宮と芝垣村との同海傍の邊に昔八郎の
津とく鯉宮の西のく昔一宮乃朝使の法窟
といふ位といふ言此の所りといはれぬ致も多し
今一村此の所の業といふ朝の名あり
日一此跡の所りといふ跡石といふ跡地はふりして

より石も又芝垣村の辨也天三町といふ所の堀出
を跡の風流北の南の山小芝系得監の城跡とい
彼中の壁といふ所りといふ家そ此人少く東北宗
可といふ意といふ乃物好まといふ近に八宗又八行跡といふ
津垣の堀一をいふ色といふ跡といふ跡昔跡の寺同基
且形をいふ法光日と大君寺といふ位野、開山堂といふ
則開山といふ上人の伯父といふ大切といふ所也此跡村中
にあり一村跡成寺乃寺地百地金栗山跡成寺は法光の
あり北陸の乃日蓮宗の大地の寺は百二十石黄門
利常公は神母君を福院殿御菩提といふ中興講堂
は遺言といふ但お呪といふ言といふ法光七堂伽藍といふ
言語といふ多跡の寺の中も遺言の名人山正何果れ
作といふ名物の大寺の跡といふ寺の中七坊の跡といふ

其外末院可ふ多し一流本寺也又宝物数多し有り

一 日蓮上人日朗上人日像上人の三幅并の幡陀羅

一 傳教大師古事此真經一卷水晶の塔小入有

一 弘法大師作の吼集此法苑の板本六枚有是ハ吼集山乃

什宝多し是ハ寺小有傳り

一 長傳子畫に傳教乃像一軸之ハ一言乃什宝此あり

一 菅原相乃辰筆此一軸有

一 當寺境内の陣取傳教の利益の三筆此一軸あり

常小室花小入く同帳あり寺其分什物多し此略ス

又鐘倉の奉り音磁瓦葺軒下有寺法定書容殿小入り

杯は寺池古ハ石動山流の三言地を時の住寺ハ満月

阿舍利とて尊きゆ者成り或時仇後の法中におきて

日像上人法論小肩て日像上人の弟子と成り西園寺高

上人ハは阿舍利此事則は寺法苑の道場形一法言

石動山やまの山といくもく仇法をいふてかたき

け寺此雜具と越まぬ教智教小治といふ(舟之福)

今ハ石動寺とも有又芝原城主將監は日像上人の傳又

多れ石動山の板取除力一里山奥小大衆とて召致す

隠しありせし時此守護神長三寸の白山権現此黄金

乃尊像小祠小を至て奇現今ハあり元ハは日像上人

瑞徳甚及石動二村小立所却已神のきりあり日像

上人も住ははしきしとい日像上人の同基よりハ御年百十

四ツあり此化有毎辛酉日七六命日忌法有て當住の

上人ハ傳ふらふせ冷泉をて容殿を同山堂と行創て一山

の傳化供奉と申すハ山伏の女を之 蝦蟇供を事し是

古ハ満月の舍利の古或ハ此山を集り拜集して經書代忌

講也此名動回近々山から山程者伏ふこと平野村の柳地
町村の民たそのいふ百姓一而宗多氏日宗六の有後の光好
とていふ神の注礼出れし

柳は金定山諸回遊の道(程)友禊としてくちり給ふに
花一宗此典の節仍不絶けしこと今我亦のつて
採奉り信縁の種とけりて

蓮池やふり泥足らいつりせん 又碎

大谷村芒種村二里余有御前町宮寺ありて餘村は村の氏宮ハ
海際の上れはあつたる宮にお地正記きて毎年石動後従地
彼衆初進止に玉毎の宮寺之祈念初夫の注礼(わ)らぬ大念寺
初村ハ一里高家多く近麻の懸置共名わし一拾遺録りしは
近郷の初て今も村とありしふれなくも村の夫も後後先除
しりてなると大念寺村近き里の名に未考村を名にす
有城高有城主民隊ありて中々金定宗中々村は初の日向者

イ又び村搦礼ハ自初石地産あり面平が経高名の
西水伝をけし石神のりもれ給あり又坂野村ハ神代川尻村ハ
拾遺のいふこと又た名ハ浦大は村ハ越る付還り二軍手
かすふふ又て又該地越りしことわり又二石宮村を越ては
神を是れ神社とて昔二石名の社あり大社の礎今に
残り坑内廣く残りて城地のいふ馬場おしり
木下四方と有社ハ今地あり事ハ昔社ハ二社傳也
元朝より及傷ふあり死人多く絶たはつ時社ハ子孫
にて天神也とて衣是系杯とて有今月十百といはれ老れ
家内ハ是とて外とてはふふありていふれや也
内血ありてとて此のいふこといふ時の社傳ハ二里脇ハ
退るに徳田村といふと山といふこといふ言ふとて寺有老名の
寺あり寺ハ寺ありて名ハ徳田村ハ寺福院殿のいふ

又ニ宮村海川の例は母の橋水軌
 乃折るえちりさうり 又梨谷小山村の氏宮中神祇大石
 中至敷子本の支カ(知れし又近き) 親迦知本の氏宮
 の神祇といふも大さ乃 親迦知本(宮田浦)も首山言
 宗地地を其礎なり又五海村(はる)や此戸元社立
 後子又神代川房村佛本村真山(流)りて一水(五河)村
 の谷川流を福神村の深谷流て川尾(切)源(海)際(三)里
 余(は)川南(八)村(川)尾(村)間(長)三(十)六(間)橋(有)け
 橋(左)岸(は)り(は)海(舟)少(く)此(名)也(中)以(橋)を(川
 口(ハ)三(百)名(村)私(出)入(せ)れ(船)馬(は)津(少)く(西)村(を)高
 家(派)なり(又)川(福)三(里)川(上)小(舟)目(の)例(を)有(橋)
 穴(下)り(く)奥(を)れ(又)福(神)村(の)深(谷)を(下)り(田)田(力)形(り)く
 所(を)め(は)浮(縁)代(付)村(鏡)用(村)鏡(村)村(に)用(多)り(は)鏡

村(中)も(廓)法(有)り(橋)多(り)一(千)丸(村)名(物)也(皆)は(深)田(力)牛
 ねり(福)神(二)丸(と)ハ(は)也(

深(田)力(は)深(田)力(の)風(生)也(以)近(道)と(は)地(に)於(て)
 此(田)も(多)れ(昔(今)も)不(何)人(ん)も(有)れ(

磯(子)く(と)も(菫)を(と)せ(れ)昔(今)も(う)り(

神代川尻 一宮分二里三十五丁(如)る(九)丁(子)又(竹)尾
 廿(廿)又(人)是(百)十五(又)道(平)也(

神代村(も)と(さ)也(は)村(の)神(代)の(社)立(治)也(は)村(を)加(列)小
 神(代)村(越)中(に)神(代)村(能)力(の)神(代)村(と)も(二)神(代)と(も)
 乞(と)又(神)代(川)尻(村)分(る)本(は)小(道)二(而)有(何)止(能)也(

如(此)六(里)法(と)も(三)里(の)間(八)人(家)も(も)一(又)福(浦)は
 少(れ)能(海)也(は)小(河)あり(地)去(福)浦(の)水(北)河(の高)

岩有以積る不通者今この道とけり終るなり
恒なる不通なり

五里寺と越る村

忍敷谷はかくして五里の村 文殊

又福浦通の安部村と経行川尾と結ぶ乃同の町
村ともの廓跡の城子源武志と子可地あり又
安部村の公願寺の松を同の松と云ふ所は海際
小川に石の石有干ハある鐘のや又福浦と
川尻の二里寺と名住村と村とあり又福浦の
此間少くは数回舟中は大船敷被不絶船馬
他山界之又気がなすもさすも川原の面白く
絶一なる也 牛下村住米より海にわたり
磯近こ小棧具岩とくさあり 磯棧具北形のわたり

石北作るとは程小の有るなり風雅なりきなり
DRAFTING 文殊

乙姫の寺とや海に棧具山岩

文殊

いかりの波乃のりく

又少く行の産村と有は村小産村宮産村の池と
本地の不動尊のわたりはあまの産高義經の妻産
有とくは一村産婦産中世を産ふはまあり
池の石と産婦懐中これの白あまの産
前村かゝる産物の代り池の石取るといと奇
瑞なりと云ふと云ふ

文殊

いかりの波乃のりく
ちり此の産物あり

又産村の産物あり山岩と云ふは西の山

風宗山の形は海を以て祖と云ふ川乃裾砂洲の海流の岩間
に路ありて其形自他の詠史に云々ありて是なり
其地は山脈のふはに其風宗と移をこりて辻植也

和くも、つゝあて回一光中く
急こく、一記、神の玉垣
文筆

あつゝ海流の時に此地を必り上りて山田下
と記す又加列之縁從生少く急石はあつゝありし
として其地を今も有るは、急石は終つて
石に此のふたをなかり

富本

北代川尻分四里三十五丁ありて首六十七又
畑屋百又人は五十二又

富本の六は、この地名をくく、凡家町村地頭研村川

障り家敷昔町斗者市場ゆく高家川の東ハ
地及所川の西、傾家町也、傾家乃地、傾家町ハ、本
嶺、嶺、哥仙具者名也、は富本川ハ、具田川と、山田
と、と立り、原、凡、至、郡、山、奥、ふ、川、ゆ、七、里、余
流、て、は、山、ゆ、け、は、縁、上、具、田、村、也、流、く、内、浦、徳、
本、一、里、也、又、富、本、川、ゆ、は、三、三、丁、下、中、流、を、入、流
り、又、一、里、の、酒、之、の、龍、護、寺、と、て、深、寺、有、五、百、羅、漢
乃、本、像、女、置、也、又、二、里、ハ、大、福、寺、村、ハ、大、福、寺、乃、言、宗
小、く、寺、願、二、千、法、堂、に、建、之、也、一、寺、ハ、其、坊、を、
奇、妙、形、に、住、寺、有、一、と、り、黄、門、村、常、公、海、依、を、以、て、り
又、大、福、寺、山、を、せ、や、り、一、里、北、高、山、あり、山、上、の、古、本、乃
松、下、り、観、音、乃、南、山、ハ、折、々、れ、山、ハ、高、山、山、の、其、形、ハ
越、前、加、列、浦、中、海、の、中、ハ、見、や、山、ハ、折、々、れ、地、也、也

けふのこ二重のりり、台並尾とて長生此人の
桂一椿あり通り通る毎らむのまふふ、
文華

は川くくと八子代もかけく、
文華

又びる本陣の中、小徳飛方、歸池、北歸、
後宮信、
とて今、
け山、
あり、
なり、
れれ、
赤、
帰、
能、

酒と酔、
位、
乃、
浦、
村、
と、
不、
前、
武、
石、
北、

又、
北、

源馬場村の奥山より流る東の西流る川（岩崎川）

古哥り

妹ふあもとの久教多りぬ院石川

子（兄）の（妹）の（皆）の（名）を（記）す

は田代院石の郷とより宗祇方角抄の居書書

誤りおくおく川と假名付有るは（何）や（ま）り（し）亦

錦川といふて（流）るを（利）

紅葉しらぬ山より（流）る（深）まの（宗）祇

川（流）る（利）

け（流）る（利）

川（流）る（利）

川（流）る（利）

今（流）る（利）

流（利）

叙地

（地）の（利）

（地）の（利）

（地）の（利）

（地）の（利）

（地）の（利）

（地）の（利）

（地）の（利）

（地）の（利）

古（地）の（利）

志うし近代公令國及貴族運不志流塚より出中給の
多から奉御の安もあはれ家も

山ふり千にけ入る瀧の流りれハ
文正年
家つくるをすくむるは

又杉見村のふ良村宮園村(古山此村小右村)は村
明和年中一村津廿二丈斗家一箇を色く不忠成り
云ふ今も其後給と云ふ其斗南此方(正徳)有る中
別村は月村に近しは村小破取せし有る七月に瀧
河又堀が御所者有る云古れ百姓の大河村(日記)を
古言始あり村後改初(は)村より一里四方し有栗の
林のり古村をとり光浦村築か時(の)岩倉此故を
海らありは移村下山村光浦邊(は)小栗をこそ
古れ地最良(は)御所(は)栗(は)古村(は)古村

西海七浦の内(は)廣津(は)浦(は)中(は)同(は)皆(は)月(は)大(は)流(は)給(は)り
けり(は)生(は)小(は)初(は)上(は)坂(は)早(は)九(は)曲(は)折(は)を(は)築(は)あり
又道下村(は)流(は)河(は)の外(は)も(は)古(は)浦(は)上(は)り(は)也(は)而(は)下(は)川(は)
荒(は)得(は)真(は)谷(は)流(は)中(は)又(は)水(は)浦(は)上(は)村(は)真(は)谷(は)高(は)根(は)尾(は)村(は)
下(は)小(は)合(は)流(は)と(は)源(は)と(は)庶(は)代(は)同(は)の(は)流(は)出(は)入(は)る(は)安(は)流(は)の(は)川(は)
け(は)流(は)の(は)庶(は)代(は)同(は)乃(は)流(は)か(は)し(は)論(は)者(は)と(は)今(は)定(は)指(は)打(は)是(は)有
又(は)川(は)の(は)荒(は)尾(は)村(は)保(は)谷(は)村(は)と(は)往(は)く(は)内(は)浦(は)中(は)居(は)村(は)の(は)付(は)邊
あり(は)別(は)巡(は)見(は)上(は)使(は)た(は)る(は)寺(は)口(は)道(は)下(は)浦(は)上(は)の(は)同(は)有(は)名(は)
同(は)村(は)と(は)子(は)指(は)持(は)寺(は)の(は)名(は)也(は)又(は)指(は)持(は)寺(は)道(は)下(は)村(は)り
三(は)下(は)有(は)風(は)至(は)砂(は)掃(は)比(は)の(は)庄(は)小(は)河(は)利
諸(は)嶽(は)極(は)持(は)寺(は)曹(は)洞(は)流(は)轉(は)衣(は)出(は)世(は)の(は)道(は)場(は)寺(は)極(は)言(は)石
地方(は)一(は)里(は)方(は)深(は)領(は)納(は)合(は)七(は)百(は)也(は)日(は)本(は)一(は)宗(は)才(は)一(は)の(は)迦(は)當(は)也
元(は)八(は)寺(は)街(は)基(は)菩(は)薩(は)此(は)同(は)基(は)の(は)教(は)院(は)の(は)地(は)有(は)り(は)小(は)純(は)と(は)福(は)宗

乃智藏堂和尚同酒井永光寺の後北者ありて
朱の給ふ此院主定賢律師是と云々
命て南原原は寺改修多下進子道下村小庵と
信ひ住あり今此堂永光寺也其後後醍醐天皇後光明
院の御宇と代々勅使倫旨あり又行房師書本の惣持
寺之有勅額多々用山瑞雲院小見あり又中興
利家公御廟様昔春院殿の菩提の為法堂御無與
ありて山門廻廊法堂等と云々御院塔司ニテ其棟と
並凡少此一化伽藍之日御一宗年御御住職勅額あり
御家の御の勅使権有花小一切經の輪藏物御あり
此寺多あり用山御小龍院のわたり雲地小伽藍
二小ひま流池一をこれいふ
又用山堂山鶴諱ハ経理性藤氏越前守福郡人母

後弘春日光乃子誕生十三於永平寺祝髪又從大乘寺
義政和尚大悟正中二年月十五日廿八化驗佛總禪寺
大安永六年有光徳圓明國師

又雷国子三所觀音十九番月札本と寺村高尾山下有
行基此年中比今物持寺院同小形巧く惣持寺の石
形り倭漢之必修淨光院百寺尾と有は寺のり
又寺の口同村のり高尾職人斗小く純ち多く田作
そりを出村の條に

け同寺のり母れ時
寺町ヤ尾乃村前垣北内
文政年

浦上

道下三三寺二十丁平地ありてやうわう七七やう
恒厚寺なる人定三三寺又道側のは堂と云々

此村三里方より別て有村に終り百姓あり
又内浦中居の行末下分市村あり此の乞見上後
道筋の内浦中居の外浦等曰く也但寺の分市半
里中市各荒尾村二里七丁荒尾村又二里七丁小支村の
地蔵塚あり此の地蔵塚の水一里終り此の還又小支村の
和果の古姓あり古姓のより長家一由縁のり此の
不詳の荒尾村あり三區あり古姓百姓あり

圓山

浦の一里七丁山に於て登るの初なる所
あり寺支恒尾に寺支令之三丁

山里少く家數少なり此の母のふるまへ終り
家數も少く奥山深く紅毛此の令録あり

繩又

糸山分三丁下乞山に於て下り此の初なる所
あり寺支恒尾に寺支令之三丁

け三區共山里少く旅宿あり此の初なる所
あり家數少く家數少なり此の母のふるまへ終り
名も少くけ三丁下乞山に於て下り此の初なる所
あり寺支恒尾に寺支令之三丁

は山に於て此の初なる所あり此の初なる所
あり寺支恒尾に寺支令之三丁

長井

他分三區半平地あり此の初なる所あり
あり寺支恒尾に寺支令之三丁

是もけ三區あり此の初なる所あり此の初なる所
あり寺支恒尾に寺支令之三丁

ゆり小行船集と云先相集戦後の通信之戦死して
堀之輪流之口水流半途ノ坂村より又海村中尾村
吃小長松河村北へ川と井川と浦村廻又村九出村
東ノ方流之る南村以流流河川と合流也

輪嶋

長井ケ二里二十丁よりまじむらや七丈柳尻中又
合二十丁

南ハ風可シ北ハ谷町ノ小間小四十分格有町内吃
け川ハ輪流より流余流ぬか入て水谷ハ輪流川
敷日被北極流とい川懸地川といて海ハ懸地村奥より
流之る長井川と合流して流之る上二三所云安流川
川内也里流ての流之る大尾の流之るけ輪流は徳州
才二の級留地也家致二丈あり中尾村を流之る武具

此流ハ中尾地方は山ノ山より是れをへ野原又町内二又
久保川として純船物風吹山吹丸として此町人
の谷町小久保地方は夏見わりの曲流也系編
地也又海若岸地は此町と町と夏三月冬
經島流り

此流之名ハ中尾流也其流之て毎家毎女子ハ
吹之る風の曲流といふてハカク尾村ハ曲ノ名ハ
中尾流也其流之てハカク尾村ハ曲ノ名ハ
中尾流也其流之てハカク尾村ハ曲ノ名ハ

尾目くく 拓くや 拓くや 拓くや 拓くや

又海町風可シ北ハ谷町ノ小間小四十分格有町内吃
け流之のせは中尾村は此町内住居地也其流之る
住居して是れ流之る中尾村は此町内住居地也其流之る
沖之倉流之る中尾村は此町内住居地也其流之る

一 暹上人法苑珠一部其外也く有略ス

法苑何来の書は法苑記 近郷風俗の八景は詩奇有

重蔵権現は月く権現とあり 然る今此地は龍菩薩

少くも金池の明神 別荘と有り 又不可解なるもの

重蔵権現は法苑記にあり 地は竹の根掘りありと

まりけり今法苑記にあり 是を重蔵権現と云ふ

南に心見原とく名無此村主の持分あり

又権現川は法苑記にあり 中岳又中岳(哉)の山は法苑

記にあり 権現川は法苑記にあり 中岳又中岳(哉)の山は法苑

六里又中岳小泉村に別荘あり 中岳(哉)の山は法苑

いづれとあり 又二村に小泉村八向小泉村とあり

是は法苑記にあり 此川の流は 哥山系なる名無有

此名は法苑記にあり

あり先の山は花もみどりも色く 又法苑
跡は山のゆりの ねりふん

又赤水行一坂村は法苑記にあり 法苑何来の塔は法苑記にあり

杖立の山は法苑記にあり

又権現川は法苑記にあり 外は法苑記にあり 権現川は法苑記にあり

近郷の高山は法苑記にあり 山は法苑記にあり 山は法苑記にあり

権現川は法苑記にあり 権現川は法苑記にあり

惣領

権現川一里十町又権現川三十六文
人三十五文

は同道往海上は法苑記にあり 向ふ七の流は法苑記にあり 権現川は法苑記にあり

名所

権現川一里十町又権現川三十六文
人三十五文 法苑記にあり

七里沖小七ヶ湾又十三里沖小重茂島といふ處にけ井の
泉ありて是は南志見の郷に小重茂島といふをいひけり
七ヶ湾之元流とは南志見の泉の程に去りて海に海吉
先年通り流ゆりて業と名を又ま倉流と遠くをいひ
はれりて又(西)廣くして水取り粟麦の熟りし
夏二月に神王とてゆりて施物杯をいふ去冬近くなれり
浪風ゆりていひきり又いふ流は神流鐵汁姫と奉り
く始り流ゆりて神流の如く風は乃神流といひ神
とていひ神流の神明宮のいひ

南志見の里より高村の娘の夜すり
糸操業のいひていひて

小車やそれ松虫乃音をいひて

又田尾村名無村が八町ありて所より小田尾越

大谷(の)北道に想以高尾と云むる在り又恒尾カキ又
合二平又高尾の川西一里六丁也又六平又恒尾
甲又合二平又川西の冷川十七丁也又六平又恒尾
松又人合七又冷川の音池一里十三丁也又八平又
恒尾甲又人合七又又音池の大谷一里四丁也又六平
又恒尾甲又人合七又又音池の大谷一里四丁也又六平
山尾のく秋末に流ゆりて流ゆりて流ゆりて流ゆりて
是より流ゆりて流ゆりて流ゆりて流ゆりて流ゆりて
阿部郡長城の別と云ふ山は西平のく桃谷村とい
ゆりて流ゆりて流ゆりて流ゆりて流ゆりて流ゆりて
は平尾山宝蔵といふ近所の高山の雲地口の浦
上りて流ゆりて流ゆりて流ゆりて流ゆりて流ゆりて
又大谷村近の通眼別定といふ所をいひて古塔といふ

平大納言此塚といふて家に此塚の時心婦の塚太谷山半及
合のり

又金龍村にあり此塚近也別金龍寺といふま言此
右寺あり同村東の本に此塚あり

又田原交川村下時時村へ行ぬ道は道なりあり
此塚といふ也泳先多道近一火川村は田原全里

の近一時國のち村にけ村唐行の山敷なり又海指の
きり山の原火大なる洞あり昔義龍此塚あり合

拾間余あり舟指合小や舟斗合こまの洞くてもろ
この子水地深サ千尋余なりあふこまに浦相根村

乃用井の洞通りをまこころ舟指字ては山にあり
る一舟舟洞は火火川村こり大川の多り有村也い
いり又大川の風を殊殊別地と流れ奥奥此の火川

故の名といはけ川限の郡さ川源南の方の洞山を流て時
乃水戸七里なり其外谷の流も入る大川と時心の名は

舟ありけ川集を新元有岩川是也町地出雲山岩
此此洞といは流はも年毎付す昔は月乳川に小

二舟移りく北北洞一乃名月といふり所此寺可小
重敏端

舟むれ岩船の後一小夜更く

深山木山は 如れ月乳

二五ふ舎中々宮城山は月乳なりを宮城山は川の
南のあり宮城山は川の東のあり深山山宮城山今此
岩倉山のし滅の多し粟谷村を此風景村の暗まで
古人の跡多理なり月の比ありかり常々一塩本
流を後の風山六返橋の影流川流の乳色淡い

各所

山の深川の流にせられ里人たきりふのし
遠より

畑中や狩蔭人ふ代りゆく
大率

時國

名毎今一里三十四丁とよ山はこむふ
恒房の事又合三十三

け村ありふ別とく有村の中おと家敷者て成時國
ふありて成村ふこ上時國の公所は右馬女といふ
一割百姓やう尚山公所中一めう物に叶出村分
とらりなるこ又叶い村ふと左馬女といふ
大右此やう山宮敷と勤りは下野郷を古跡といふ
又東の方高は岩倉山といふ別山石倉久の神社を
又名不記おふ有宮城山といふ岩倉山の事古奇り

